

市政に対する一般質問

一般質問は、提出された議案にかかわらず、市政全般に対して、議員が執行者の考え方をただすことができるものです。
3月定例会では、3月16日・17日の本会議で16人の議員から質問が行われ、終始熱の入った論議が繰り広げられました。以下は質問・答弁の概要です(掲載は質問順、6面まで続きます)。

市民主体のまちづくりを進める行政経営のプランとは

あやせ市政クラブ 安藤多恵子

産業振興基本条例を制定し地域産業を活性化しないか

あやせ市政クラブ 青柳 慎

綾瀬警察署の早期設置の署名をどう生かしていくのか

あやせ市政クラブ 近藤 洋

農業後継者や荒廃農地など農業に関する諸問題を問う

あやせ市政クラブ 増田淳一郎

職員研修の継続と、市民活動に関する講座や行事等にも参加をさせたい。(他に「元氣、安心、感動、便利社会をつくる電子自治体のありかたについて」を質問)

設置できればと考えている。また、チェーン店に加入を求め、空き店舗対策と商店会活動の充実が重要課題であるため、来年度予算に事業助成を措置したものであり、現段階での条例制定は考えていない。(他に「テレビジョン共同受信施設事業について」「ペットボトルのキヤップリサイクルについて」を質問)

等の設置は、既に十八年目になり、一朝一夕にはいかないという覚悟しているが、実現の大きな力となるよう多くの市民の署名を集め、県知事等に本市の状況を十分に認識してもらったあの見出しには大きな憤りを感じているが、市民のため粘り強く運動展開していく。そして、国民保護法の関係からも厚木基地のある特殊な状況を強く訴えていく。また、土地・建物は本来県と考えるが、市民の理解が得られる範囲で協力していく。なお、警察署設置を基本スタンスとしながら、大型交番などもひとつの方策として是非取り組んでいきたい。

に考えているか。さらに農畜産物の地産地消を拡大するため、どのように進めるべきかと考えているか。

答 後継者対策としては、農業経営の基盤整備に対する支援を続けるとともに、研修や消費者との交流、さらには市内企業との連携を図っていきたい。なお、補助金は十万円だが実際の事業は三十万円講習会等を開催している。荒廃農地は、貸し借りや市民農園、ホームファーマー制度を奨励して、利用増進を図っていく。特産品は、産・学・官が連携してプロコリーの利用を考えている。地産地消の拡大には、料理教室の開催やマップなどで推進を図るとともに常設の直売場の早期実現に向け、関係機関に働きかけていく。(他に「コミュニケーションパスについて」を質問)

音楽を通じて文化振興を行ない全国に発信しては

公明党 松澤 堅一

問 文化芸術は人間に勇気と感動を呼び起こすのみならず、政治や宗教、民族の違いを超えて人々の心をつなぎ、世界の平和創造へと大きく寄与する力を持っているが、日本における文化芸術分野への政府支援は十分なものとは言えなかった。しかし、二〇〇一年に文化芸術振興基本法が制定されて以来、政府の事業予算が飛躍的に拡大し、ようやく文化芸術立国日本に向けて歩み始めたが、

この法律に関してどう考えるか。また、わが市も音楽を通じて文化振興を行い音楽が盛んなまちとして、全国に発信してはどうか。

答 文化芸術を創造し、享受し文化的な環境の中で生きる喜びを見出すことは、人々の不変の願いである。また、文化芸術は、人々の創造性をはぐくみ、表現力を高め、人々の心のつながりや相互に理解し尊重しあう土壌を提供し、心豊かな社会を形成する上で、その果たす役割は重要になると確信する。また、今後もテレビ局との共催事業や市民に文化芸術祭等への参加機会を提供し、自主的な活動団体を支援していく。さらに、文化会館ロビーを市民に開放して新たに「あやせローズコンサート」を開催して全国にアピールしていく。(他に「ごみの更なる減量化に向けて」を質問)

問 市長は、新行政改革大綱「あやせ経営戦略プラン」と「あやせ集中改革プラン」を策定し、この中で行政運営から行政経営に変えていくとしているが、市民にとって何が今までと変わり、その先にとどのようにならなければならないのか。さらに行政改革には何が一番大事か、何を目標に行うのが、明確に分かるようなキーワードをつくる考えはないか。また、市民協働については、条例のもと市民が活動できるように飛躍的に環境整備されたが、もっと市民に市民協働の意識が深まるよう具体的な取り組みを考えてはどうか。

問 長期の景気低迷や後継者不足などで、市内でも多くの商工業者が撤退や廃業を余儀なくされている。地域経済の活性化のため、市役所前の商業施設間の連携や交流を図り、地域振興の核を創出するため、市役所前商店会を立ち上げてはどうか。

問 警察署の設置は、市民からの強い要望もあり、早期に必要と思うが、自治会を通じてや街頭で集めた五万一千六百六十二名分の署名をどう生かしていくのか。県議会での笠間県議の質問に対し、県警本部長が相模原北署の新設以降、当面具体的計画はないと回答し、綾瀬警察署の予定なしと新聞報道された。この真相が伝わっていないため、署名した多くの市民がこの見出しに大変驚いたと思うがどうか。なお、大きな課題は財政面であるため、少なくとも市が土地等を提供する形で警察署設置を目指し、同時並行で大型交番や自動車警察隊の誘致なども進めては、

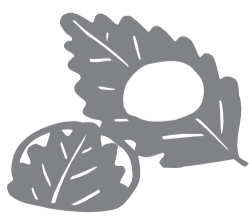
問 農業に関連する諸問題についてを問う。農業従事者の平均年齢が高まる中、どのような後継者育成対策を考えているか。また、農業後継者育成対策協議会補助金として十万円を予算計上しているが少なくともいかに。市内の荒廃農地の対策として有効な利用方法を考えているか。J Aさがみの収穫祭で販売された農家の奥さん達が作った加工品を特産品づくりの参考にするなど、農畜産物を利用した特産品づくりをどのよう

答 これまでの行政運営が、予算に対する執行率重視、前例踏襲の傾向だったものを、市民や地域社会にとって何が何のためになったのかを市民が実感できる成果重視へと転換していくもので、だれもが住みたいと思えるまちの実現を目指す。あえてキーワードとするならば、市民の視点で行政運営から行政経営への転換を訴えていきたい。また、市民協働の実現には、市民と職員の相互理解及び目的意識の共有が必要であり

出で、魅力ある商業核が形成されつつある中、商店会の設置は、地域に密着した重要な存在であり、集客イベントなどの共同実施が地域産業の活性化につながるため、商工会との連携を図るとともにイルミネーション事業などの実施をきっかけに

答 毎年度に要望してきた警察署

答 毎年度に要望してきた警察署



第16回綾瀬市書道協会展が3月下旬の4日間、市民展示ホールで開催されました。会場には51点の力作が展示され、訪れた市民が熱心に鑑賞していました